

# 第7回 Support Our Kids リュニオン翔

東北の復興アンバサダーによる未来を生み出すカンファレンス

## 実施報告書



2018年11月

Support Our Kids 実行委員会

Support Our Kids 2018

# REUNION

# 翔

東北の復興アンバサダーによる  
未来を生み出すカンファレンス

7TH

11.11 観覧無料  
SUN

12:00 OPEN

12:30 - 16:00

東北福祉大学 けやきホール

宮城県仙台市青葉区国見1丁目8-1

電車：JR仙石線「東北福祉大前」駅下車 徒歩5分

バス：仙台市営バスJR仙台駅前（西口バスプール9番）  
から「東北福祉大前」下車 徒歩すぐ

## 第1部

### 『NEW BEGINNING』

海外で新しい世界への扉を開いた  
復興アンバサダーたちによるプレゼンテーション

## 第2部

### 『次代の創造・グローバル セッション』

「復興と平和」を視野に、グローバルに  
チャレンジを重ねる若きリーダーたちが  
今考えるべきことを熱く語る。

スペシャルトークショー『復興と平和』

ゲストスピーカー：番匠幸一郎氏  
(丸紅株式会社顧問 元陸上自衛隊西部方面総監)

長きに渡り「復興と平和」をテーマに  
最前線で活動なされている番匠氏を  
お迎えし創造すべき次代について考えます。  
※番匠氏は、自衛隊第一次イラク派遣部隊  
の指揮官として、東日本大震災の際には、  
米軍による被災地救援活動『トモダチ作戦』  
の日本側担当として活躍されました。



主催：Support Our Kids実行委員会 共催：東北福祉大学

復興  
と  
平和

観覧申込受付中

11/10までにQRコード、またはお電話にてお申し込みください。

お問い合わせ：☎ 03 - 6272 - 6252 e-mail: sok@jidai.or.jp



## 開催概要

- 名 称 : 第7回 Support Our Kids リユニオン 翔 2018  
日 時 : 2018年11月11日日曜日 12:30-16:00 (12:00開場)  
会 場 : 東北福祉大学 けやきホール (宮城県仙台市)  
主 催 : Support Our Kids実行委員会  
共 催 : 東北福祉大学  
来場者数 : 200名  
\* 運営ボランティア 23名 (東北福祉大学けやきクラブ)  
会 費 : 無料



### 第7回Support Our Kidsリユニオン・翔 ご協賛・ご寄付

[商品協賛] 株式会社伊藤園、グリーンコア株式会社、株式会社ブルボン、三菱食品株式会社

[ご寄付] IMG JAPAN、株式会社アカデミー、株式会社アップフロントグループ、ANAホールディングス株式会社、関彰商事株式会社、タリーズコーヒージャパン株式会社、東和工業株式会社、西正典、二見アヤ子、フランス料理オー・プロヴァンソー、牧順、株式会社マルトグループホールディングス、南三陸ホテル観洋、株式会社メディアコミュニケーションズ

(敬称略)

# 主催者挨拶



ポール・カヴァナ大使 アイルランド大使館  
Support Our Kids 実行委員会会長

「震災の被害の様子をTVで見ても、私もアイルランドの国民も、世界中の人々も心を痛み、皆さんのことを想っていました。そして、今も変わらずに、世界中がサポートしています。Support Our Kids実行委員会会長として、各国の大使と共に、ひとりでも多くの東北の子どもたちを「復興アンバサダー」として世界に送り出せるように尽力したいと思います。」

## 会場で流した各国大使館からのビデオメッセージ



ローラン・ピック大使  
フランス大使館



スティーブン・ペイトン大使  
ニュージーランド大使館



アン・バリントン元大使  
アイルランド大使館



マイケル・ホイ参事官  
オーストラリア大使館



クリスティーン・カラハン書記官  
カナダ大使館

# 第1部 『NEW BEGINNING』 復興アンバサダー2018

10月7日に行われたリユニオン事前研修で、OBの白井森隆さん（東北大学4年）がファシリテーターとなり、今年のホームステイ参加者29名の気づきを共有。これから出発するニュージーランドチームを含め、みんなの意見を引き出して2018年のSOKホームステイを総括する言葉にまとめました。

## 「はじめまして、新しい世界」



「はじめまして、新しい世界」（染谷陽夢 14才 福島県 カナダ2018）

SOKホームステイ2018を一言で表すとどんな言葉がいいか、みんなで話し合った時にこの言葉が出てきました。私たちがそれぞれ行った先の国で沢山使った、初めて会った時の挨拶「はじめまして」。この言葉には、多くの意味が込められています。ホームステイに行って、出会った人達、自分の気づきに対する「はじめまして」。新たに学び、知ることのできた「新しい世界」への「はじめまして」。そして、成長し、改めて知ることのできた自分に対する「はじめまして」。

他にも各個人で、自分の経験を当てはめて、いろんな意味を持たせていると思います。

私は、プログラム中に声をかけてもらった中で、とても心に残った言葉があります。それは、SOKのOGで、引率補佐として私達と関わってくださった方からの「仲間をもっと信じて頼って」という言葉です。その時はまだ、仲間に相談することもできず、知らない土地で、自分一人の力で解決しないといけないと思い込み、無意識に気を張っていました。その時に、そこまで気負わなくていいんだと、その人は教えてくれました。

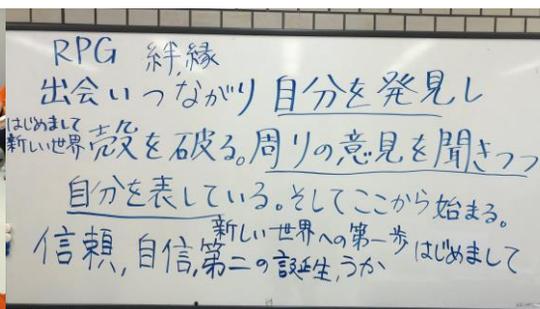
そして仲間を頼ることができた時、私にとって新しい世界が開けたと思いました。行く前の私だったら、今ここで皆さんにこの気持ちを伝えることはできなかったでしょう。

これから、自分の人生を生きていくにあたり、この経験は、とてつもなく大きな宝になることと思います。大切なその経験を私たちに与えてくださった支援者の方々、保護者の皆様、本当にありがとうございました。その感謝の気持ちを私たちは、それぞれの形で返して行きます。

それでは、私達のプレゼンテーション「はじめまして、新しい世界へ」へ移らせていただきます。どうぞ、お聞き下さい！



10月7日（日）リユニオン研修@東北福祉大学



# 第1部 『NEW BEGINNING』 復興アンバサダー2018

復興アンバサダー29名は、東北を支援して下さった国へ渡り、感謝の思いを伝え、自分たちが経験した大地震、津波、原発事故から得た学びや復興への想いを現地の皆さんと共有しました。現地でのたくさんの学びを得て帰国した彼らのNEW BEGINNING（新たなはじまり）。復興を担うリーダーとして、今回の経験をどのように活かしていくかを発表しました。

また、SOKのホームステイプログラムでは、訪問国にて、東北の復興アンバサダーとして自分たちが経験した東日本大震災の当時の体験とそこからの気づき、その国からの支援への感謝、復興の状況や復興へかける想いなどを伝えるというミッションがあります。来年3月に出発するニュージーランドチームは、現地で行う震災プレゼンテーションを発表しました。

## 復興アンバサダー2018 各国発表 HOMESTAY PROGRAM & 震災プレゼンテーション

### フランス（9名）チーム「4C」 6.9 - 6.20 シャエーニユ村、ル・マン市

「4C」Challenge / Communication / Chance / Change を心に渡仏。

- ①現地では、言葉の壁やチームメイトとの出会いで、自分を変える勇気や挑戦を恐れない強さを得た。
- ②ル・マンでは、レースに人生をかけて戦うレーサーたちの姿に感銘を受け、帰国後は生徒会にチャレンジするようになった。
- ③フランスに対するイメージで、先入観で物事をみていた自分に気づき、思い込みで人を恐れるのをやめるようになった。
- ④自分の限界を決めていたことに気づき、チャレンジする心で人生を切り拓いていきたいと思うようになった。

フランス語で歌を披露しました。



#### マツダ 廣嶋様

(MAZDA松崎様からのメッセージを代読)  
「あの子のかけがえのない気持ちや将来の夢を思い巡らしてください。大切にしなければならぬものはなにか、想い続けてください。自分の誇れる素晴らしい人生につながっていくと想います。」

### アイルランド（6名）チーム「ポッピングシャワー」 7.21 - 8.5 ダブリン

“Are you ready to take over from us?”

次の時代を受け継ぐ準備はできていますか？（ダブリン市長）  
アイルランドでの経験からの成長で、“Yes!”と応えられるようになりました。

- ①“Not Alone、世界中が助けるよ”とのダブリン市長の言葉で、自分達が努力をして夢を実現することが復興につながると気づいた。
- ②語学学校での世界中の子ども達の積極性（自分の意見を発信、議論で自分の意見を深める、他人の失敗を笑わない姿勢）を学んだ。
- ③英語が苦手だったが、言葉ではなく、「どうすれば自分の思いを伝えられるか」考えることが重要で、それによって良い絆ができると知った。
- ④言語や文化を超えて、「グローバルハート」で人と向き合うことの大切さに気づいた。
- ⑤福島へは原発事故などのネガティブな印象があると気づいた。現状を自分達で伝えていくことでポジティブなイメージに変えていきたい。
- ⑥多くのアイルランド人は、「人に優しくすること」を大切にしている。自分もそのように人に接していきたい。



#### アイルランド大使館 カヴァナ大使

「若い人たちが、震災の体験をこれほどまでに深く考えていることに感動しました。若い時の経験は大変貴重で、これからのみなさんの人生を豊かにしていくと想います。今日話してくれたような希望、優しさ、自信を持ち続けながら、みなさんが成長していく姿を見守り続けます。」



## オーストラリア (6名) チーム「くのいち」 8.2 - 8.16 ブリスベン

女子6名のチーム、「くのいち」の頭文字は、くじけしないで（言葉の壁をこえて前向きに）のびしろをもって（限界を決めずにチャレンジする）いっしょうけんめい（東北の代表として一生懸命に）チームプレイ（悩みを共有し、共に喜ぶ）

- ①豊かな自然のオーストラリアでは、人と動物の共存、様々な人種の共存、家族の絆を体感。
- ②伊藤園さんからご指導いただいた「日本茶」のデモンストレーションで現地の方々に日本文化を共有しながら交流できた。
- ③現地には東日本大震災を知る人が多く、自分も他国のニュースに目をむけていこうと思った。
- ④現地の先生や生徒のコミュニケーションをみると、なにごとにも積極的で、相手を尊重していると感じた。
- ⑤帰国後、自分の意見を言えるようになり、自分から行動できるように意識が変わった、「自分はこのままの自分でいい」と思えるようになった。
- ⑥支えてくれる人の大切さを実感。



### 伊藤園 三浦様

「出発前から比べて大きく変わった様子に驚きました。そして、一生懸命、自信を持って発表されていたから、僕の胸に響き、とても感動しました。これから、一生懸命、明るく、自信を持って、日本を引っ張っていただけるような人材になるように頑張ってください。」



## カナダ (8名) チーム「LOVE」 8.9 - 8.22 トロント

LOVEは、Leader / Original / Vision / Enjoy TVのインタビュー形式で発表。

- ①現地の方々と過ごすキャンプに参加することで、言語の壁に躊躇しないようになった。
- ②震災プレゼンについて、「ゆっくり、伝えるように話すとよいよ」と現地の人からアドバイスをもらったことで、しっかりと伝えることができるようになった。
- ③キャンプファイアーであたたかい言葉で交流。忘れられない時間。
- ④ホームステイでは「あなたは家族の一員だからなにをさわってもよいよ」と言われ、日本とは違う、受け入れられていることを実感。
- ⑤街に買い物に出かけ、日本との違いを楽しみ、五感でカナダを感じることができた。
- ⑥他文化に触れたり、支援者に会え、非常によい経験となった。
- ⑦キャンプ中にみんなで作った世界に1枚しかないTシャツやモザイクアートなど、クリエイティブなチームワークで有意義な時間となった。



### 三菱食品 田村様

「皆さんが純粋に感謝する気持ち、復興に対する真摯な姿勢に感動しました。自分の中の大きな可能性に気づいた皆さんが将来のリーダーとして活躍されることを応援しています。」



## ニュージーランド (6名) チーム「でこぼこフレンズ」 2019年3月 ウェリントン、クライストチャーチ

みんな年齢や個性の違うチーム「でこぼこフレンズ」オリジナルの映像でプレゼンをスタート。

- ①震災当時に、様々な工夫をしながら乗り越えた日々、窓の外を建物や人が流されていく様子は地獄のようだった記憶、原発事故で立ち入り禁止になり家に帰れない人がいたり、引越した先でのいじめがあるという現状。
- ②今できることは、災害を想定した避難訓練や、自分たちの言葉で震災について伝えていくこと。
- ③復興とは、「被災した人の心が癒えること」だと実感。地域の助け合い、つながりを大切にしたい。
- ④ニュージーランドからいただいたご支援には大変感謝している。義援金やラグビー選手がSOKのチャリティイベントへ参加してくださったり、この感謝の気持ちを伝えたい。



### タリーズコーヒージャパン 鹿野様

「なにが夢中になって取り組めることを見つけてもらいたいと想います。将来、壁にぶちあたったときに、夢中だった自分を思い出せるとひとつのものさしになると想います。健康に気をつけてホームステイに行ってください。」

# 第2部 次代の創造・グローバルセッション OBOG

震災から7年半。ホームステイで得た気づきをきっかけにOBOGメンバーはそれぞれの熱い想いで夢の実現に向けて日々活動しております。様々な角度から「復興と平和」について考えます。

## Glocal Talk



### SDGs～世界を変えるの17の目標～鈴木麻莉子 2013 アメリカ 上智大学

「目の前にいる人を一瞬だけでも笑顔にしたい。」留学先のホストシスターや貧困地域に住む子どもたちから、笑顔と愛の重要性を教えてもらい、国際協力活動を始めた。だれかのために活動をする。それだけで立派な国際協力になる。たくさんの人に助けられた自分が今度は誰かのために活動をする。世界を変えることはひとりひとりのちよつとした行動。



### どうして戦争はなくなるのか 小田和樹 2015 スイス&ポーランド 筑波大学

国が大きくなったり、小さくなったりするのはなぜなのかという疑問から外交史を学び始めた。歴史と歴史をつなぐものが外交史、外交史で世界を知ることができる。戦争はなくなるかもしれないが、未然に防ぐことはできる。「外交」によって。文化交流、技術交流、、、個人が仲良くなれば、平和が築ける。



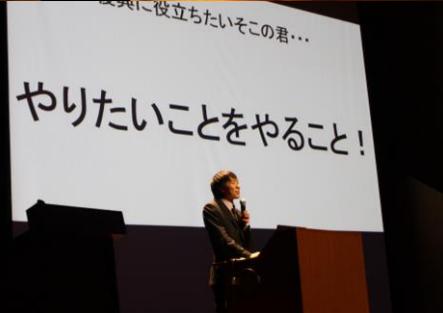
### ユニバーサルデザイン 藤沢苑風 2013 アメリカ 宮城大学

福祉大国のデンマークでどのように福祉が実生活に生かされているのを知りたくて、障がい者が半数以上を占める学校へ留学。ハードの面は日本も大差がない。デンマークでは障がい者にも健常者と変わらないチャンスがあり、責任を任せられる。多様化の進む社会での共生に大切なのはハード面ではなく、ソフトでのユニバーサルデザイン。



### 高校生が見た自衛隊 永淵大 2016 アイルランド 仙台青陵中等教育学校5年

高校生40名に対するアンケートを実施。自衛隊の活動を理解している人が多かったため、肯定的な見方が多かった。平和な世界 = 全世界の人が安全で幸せに暮らすことだと考える。将来はPKO活動に携わりたい。



### We Love 台湾 澤田悠希 2014 アメリカ 東北学院大学

台湾プロジェクトを実施し、台湾の学生を東北へ招待した。震災時には台湾からたくさんの支援をいただいたことを知った。社会に貢献したい人は、とりあえずやりたいことをやってみてください。出会い、価値観が変わり、夢が見つかり、やりたいことが見つかる。無理はせずに、参加するところからはじめてみてください。



TBSテレビ 鈴木様

人には様々な出来事や人との出会いがあると思いました。胸がつかまるくらい感動しました。これが私の今日の出会いです。大切に持ち帰りたいと思います。いろいろな出会いの芽を大切にしていっていただきたいです。東北の皆さんがリーダーとなり、明るい未来をつくっていただきたいと思いました。



マイヤ 佐々木様

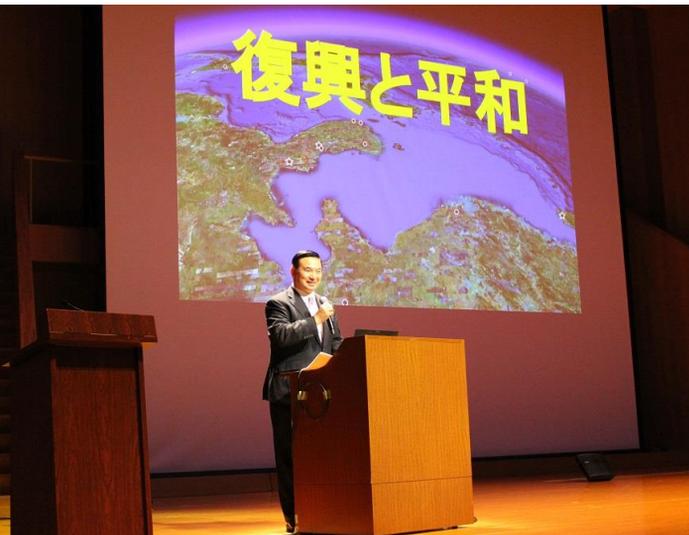
今日で震災から7年と8か月が経ちました。時間の経過とともに、だんだん震災を知らない世代が増えたり、記憶も薄れたり、風化も進んでいきます。風化を食い止めるという意味でも、防災という意味でも、復興のリーダーを育てるこの活動には今後も協力していきたい。

# Special Talk Show

## 『復興と平和』 番匠幸一郎様

人道復興支援の最前線で指揮をとられてきた番匠さんによる基調講演。

「平和は与えられるものではない。みんなでつくるもの。」「すべての問題は解決されるために存在する。そして、解決してくれる人のところにしか来ない。」「未来に備えること Prepare for the worst、未来を創造すること。」「みなさんに期待することは、心身の健康、明るく前向きに、強く優しく、基本基礎を大切に。」「本物・一流であることを追求しよう。」「やってやれないことはない。やらずに出来る訳がない。どうせやるなら、悔いなくやろう。」



### 来場者の声

イラクの支援・復旧の生々しい話を聞き、日本が本当に幸せな国なのだと感じました。

「平和」だけ聞くと、偽善的なことも考えがちですが、「復興と平和」の考え方だと、そこに何かしらの「理由」が生まれてずっと受け入れられる平和だと思いました。

ロバカライオンかという言葉がよかった。なるほどと思いました。強いものは優しくもなるということを適切に言っていて、普段の生活にも生かせる言葉・姿勢だと思いました。

日本式の活動支援。目線を合わせて主役はどこか誰かを考えて行うこと人のつながりの大切さを考えました。

復興の努力が平和へとつながると思った。

## Panel Discussion

### 『復興と平和』 番匠幸一郎様

#### パネリスト：第2部登壇OBOG

番匠さんからの質問 「自分を変えた海外経験」「海外と日本の違い」「今日現在の自分が、今後どのように進化していきたいか」

インドでは貧困層でも笑顔でいる。なにを大切に思うか。/人の言動には目的がある。嘘つきにも。/水が飲める幸せ、食べ物を食べられる幸せ。いくらでも豊かに感じることができる。/デンマークでは、差別をされたことがない。見た目アジア人でもデンマーク人かもしれないからデンマーク語でまず話しかける。違いを受け入れる姿勢がある。/ポーランドには、美しすぎてドイツ軍が壊せなかった建物があった。本当に美しいものへの認識はみんな同じらしい。/アウシュビッツはショックだけど、考えるきっかけになった。/ホストファミリーの信仰心を受け入れるのが難しかったことを正直に伝えても問題ないとわかった。バックグラウンドが違う人を受け入れるということを学んだ。/日本は「普通」「常識」にとらわれすぎ。自分で決めるのではなく、他人に合わせている。/固定概念を捨て、世界をみる人になりたい。/自分で選んで生きていきたい/革新的なことを思いつく「ばかもん」を目指したい  
平和とは、他人との違いを受け入れ、自分の考えを伝える自由があり、豊かさを感じながら、小さなことでも自分ができていることをやっていくことなのかもしれません。

### 来場者の声

「復興と平和」どちらでも難しい問題ではありますが、今日発表して下さった若い方々はこのプログラムを通してとても魅力的な人になっています。「復興と平和」の知識を学ぶことも大切ではありますが、異文化を理解しあう経験が必要だと感じた。

### 2018生の声

東日本大震災の復興は、自分も含め人々の心から離れて行っているような気がします。しかし、大切なのは「持続させる」ことだと思います。これは平和を作ることにも言えることです。最近で言えば、ロシアとの平和条約と北方領土の交渉でしょうか。これらを後押しするのが情報の発信、いわゆる、「私たちでもできる小さなこと」だと考えます。私1人が玄関の前で復興と平和を叫んでも世界には届きません(もちろん、ブラジルの人にも)。しかし、グローバルな場で情報を呼び、人々と「連帯」し、アピールすることで1ミリは世界を動かせると思います。



### ANAホールディングス 内園様

数年前に支援を受けた生徒さんが、様々な経験をし、今は誰かの為に活動をしている。たった数年でこれだけの進化を遂げ、レベルの高いパネルディスカッションしている姿に、大変感動致しました。そして、今日の発表を聞いて、生徒さんたちが、SOKが目的とするところに着実に向かっていることが感じられました。今日の皆さんの発表を持ち帰り、私たちも何ができるのか、考えてみたいと思います。



### ニュージーランド大使館 宮崎様

ニュージーランドは、女性の社会進出にバリアがない国として有名です。番匠さんがおっしゃるように、与えられるものに棚ぼた式はなく、自分で制限や限界を決めずに、自分で勝ち取る。どんどん自ら勝ち取ることで、みなさんの将来は、どんな可能性も開けると思います。



## HABATAKI Live

### #1 ♪ 熊谷海音『おはなし』



熊谷海音 (カナダ 2017)

私にとって歌はとても大切な存在です。震災の時家族を亡く悲しんでいる時私を励ましてくれたのは歌でした。歌が大好きと思っている自分。ですが、そのことでバカにされたりすることが多くありました。SOKに参加する時は歌があまり好きではなくなっていました。歌がなくなったら誰も私を必要としてくれないんじゃないかと思ってしまいました。しかし去年カナダに行ってきたと触れて震災のことを話したり歌ったりして私には何ができるだろうと考えるようになりました。私は歌を通して、1人じゃないということ伝えたいと思っています。私は英語をうまく話すことができなかつたんですけど、かなだで歌わせていただいたからこそコミュニケーションをとることができたし、1人じゃないんだなってそう実感することができました。そして、たくさんの人に勇気や感動を与えていきたいと考えるようになりました。

### #2 ♪ 『HABATAKE!』 (全員で)



## 保護者会 at 風土 9:30-12:00

リユニオン当日の午前中には保護者同士のネットワーク向上を目的とした第7回保護者会を併催。

OBOGの保護者有志による「SOKパワフルママの会」進行のもと、初顔合わせの保護者同士、生徒の訪問国別にチームを創り、コミュニケーションを深めました。

## 懇親会 at 風土 16:30-18:00

実行委員進行のもと、マルチグループホールディングス石山さんの乾杯でスタート。歓談タイムのほか、SOKクイズ、「SOK OBOGの今宣言」など、実行委員進行のもと大いに盛り上がりました。

現在ファーマー1年生として新たな一歩を歩み始めたOB山城恵介くんの初収穫米「ひとめぼれ」の塩むすびも大好評でした。





## 実行委員会企画展示

### SDGs ~私たちが創りたい未来~

ホームステイで気づき私たちが歩み始めた一歩、それぞれの活動は違えど、復興と平和を願う気持ちは一つ。

活動をしているうちに、国連が定めたSDGs 17の目標と私たちが目指す点が同じことに気がきました。これから歩いていく未来への意気込みをまとめました。

ぜひご覧ください。



食で  
食べ物で幸せを

ストリートチルドレンとのふれあい、生き伸びるための食糧ではなく、幸せを感じるために食べ物があるのだと貰えた。

2017年 ニュージーランド 菅原こみ



自分の力で  
平等な世界を

自分自身は多くの人と関わりたいが、いかにして、だから誰かから支えられたらいいなと改めて思った。2018年 アイランド 菅原こみ



## 協賛品



(株)ブルボン様  
三菱食品(株)様



(株)伊藤園様 / グリーンコア(株)様

## チャリティグッズ販売

Support our Kids

ピンパッチ  
500円

TULLY'S COFFEE

Tully's ZIPS  
980円

JA 福岡

とまと梅  
700円/1個  
1,000円/2個

## SOKキッズの声

本当に感謝です。  
たくさんの人に  
支えられていることを忘れずに  
コツコツ頑張っていきたい。  
そしてSOKでこれからも  
活動していきたいし  
本当に出会えたこと、  
出会わせてくれたことに  
感謝します。

(※SNSから)



Support rt  Our Kids s